



いよいよ上まで葺き上がります。(茅葺き | 屋根面を葺く | 2021年5月6日ドローン撮影)



屋根の東側と西側から葺き上がった茅が棟（むね）に集まります。それを交互に編み込んで重ねていきます。「小まるき」とよばれる作業です。（棟づくり | 2021年5月6日撮影）



編み込んだ茅の上に、棟と平行の向きで茅をしき、縄で縛ります。(棟づくり | 2021年5月6日撮影)



棟づくりで使う材料をこしらえています。茅を束ねてアーチ状にした「シナドメ（リュウマキ）」
とよばれるものを、棟の両端と真ん中の3箇所を設置します。（棟づくり | 2021年5月6日撮影）



「シナドメ (リュウマキ)」は、このあとに棟に茅を重ねるときの高さの基準にします。(棟づくり
| 2021年5月7日撮影)



さらに棟に左右から茅を重ねます。(棟づくり | 2021年5月7日撮影)



再び交互に編み込みます。「大まるき」とよばれる作業です。(棟づくり | 2021年5月7日撮影)



「大まるき」で編み込まれた棟部分の茅。(棟づくり | 2021年5月7日撮影)



「小まるき」の後と同じように、「大まるき」の後も写真のようにもう1層茅を重ねます。古茅も使われています。これで棟づくりの茅を使う工程は終わります。(棟づくり | 2021年5月7日撮影)



茅で編み上げた棟の上に、杉皮を載せ、竹で押さえます。(棟づくり | 2021年5月10日撮影)



杉皮を棟まで運びます。(棟づくり | 2021年5月10日撮影)



棟に使う竹を綺麗に拭き上げます。竹は日に当たるとすぐに色が変わるため、若竹色の棟は葺き上がった時にしか見られません。(棟づくり | 2021年5月10日撮影)



杉皮の上に竹を並べ、縄で編みつなげ、固定します。(棟づくり | 2021年5月10日撮影)



(棟づくり | 2021年5月10日撮影)



切り開いた竹で9か所押さえます。(棟づくり | 2021年5月10日撮影)



(棟づくり | 2021年5月10日撮影)



(棟づくり | 2021年5月10日撮影)



棟に載せた竹を細い縄で編み縛っていきます。写真で記録しきれないほど、棟づくりだけでたくさん
の工程がありました。(棟づくり | 2021年5月10日撮影)



(棟づくり | 2021年5月10日撮影)



棟づくりが終わり、最後の仕上げ、刈り込みに移ります。(2021年5月10日ドローン撮影)



刈り込みは、屋根バサミなどを使って飛び出た茅を刈り取り屋根面を整えます。棟から下に向かって刈り込んでいき、上から順に足場丸太を外していきます。(刈り込み | 2021年5月12日撮影)



ガンギも使って整えます。(刈り込み | 2021年5月12日撮影)



電動式刈り込み機も使用します。(刈り込み | 2021年5月12日撮影)



刈り込みの作業では、カラス抜き（またはカラスヤットコ）と呼ばれる道具で、茅をつまんで引き抜いたり、部分的に長さを整えたりもします。（刈り込み | 2021年5月12日撮影）



切り茅を差し込んで整えることもあります。職人の目で見て、手で確かめながら整えられていきます。(刈り込み | 2021年5月12日撮影)



(刈り込み | 2021年5月12日撮影)



(刈り込み | 2021年5月12日撮影)



5人の職人によって丁寧に刈り込まれていきます。(2021年5月12日ドローン撮影)



(刈り込み | 北島家の上から | 2021年5月12日ドローン撮影)



5月中旬、茅の葺き替えが完了しました。その後、土壁の補修や点検を終え、工事用囲いが取れ、お披露目となりました。(葺き替え完了 | 2021年7月20日撮影)